

■今月の特選句

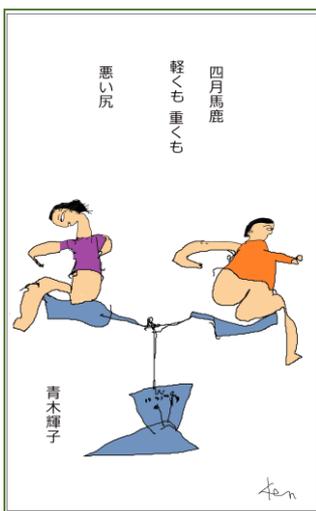
2021年6月



紋白蝶が気になって仕方ない葱坊主

鈴木和枝

葱坊主に物心がつく頃、モンシロチョウが気になって仕方ない。モンシロチョウも、飾り気のない葱坊主のことが気になり始め…。ある葱畑でのお話。



四月馬鹿軽くも重くも悪い尻

青木輝子

尻軽はいかん。かといって尻が重いのも困りものだよ。どちらのタイプも困るねえ。同一人物で軽い尻と重い尻と両方使い分けるって？ 最悪だな。



ランナーと競ひ流るる春の川

月城花風

ランナーは孤独な闘いを強いられるから、伴走者の存在は有難い。ただ、その日の流れ方によってランナーのタイムが左右されるのが難点か。

■今月の特選句

2021年6月



せんせいと呼ばれみどりの羽根を挿す

西をさむ

赤い羽根は社会福祉の充実を目的として十月に、緑の羽根は緑化推進のために四月に、募金活動が行われる。国会議員の胸でよく揺れている。



誰よりも先に新茶を嗅ぐ 鋏

久我正明

茶摘みの現場にいる茶摘女が、誰よりも先に新茶の香を楽しむことができる。とは誰もが思うこと。しかし、まさか鋏が一番とは思いつかなんだ。



一円玉見つけた更衣

吉川正紀子

財布の中にある一円玉を見ても有難味を感じない。なのに衣更えの時にポケットから一円玉が出てくると、嬉しくて大事にされるから不思議。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

考へてわからぬ答亀鳴いて ・・・俳句の批評亀鳴くに似て	稲沢進一
春夏を秋と言い張る竹と麦 ・・・季語の事情を構つてをれず	花岡直樹
アリバイをどこ迄綴る蟻の列 ・・・共犯の蟻列にまぎれて	稲葉純子
鯉のぼりメインディッシュに風所望 ・・・お代わりとても無制限だよ	小林英昭
木苺の個性シンプルすぎる味 ・・・飽きがこなくとももの足りなくて	森岡香代子
自らが選べぬいのち油虫 ・・・ヒトに詠まれて良かったじゃんか	竹下和宏
<small>サエズリ</small> 轉や食べるもしやべるも同じ口 ・・・同時にやって咽るは困る	峰崎成規
腹時計只今正午麦の秋 ・・・こんがり焼いたトーストがいい	高田敏男
にんにくの追加に走らせ初鯉 ・・・急ぐ姿は泳ぐかのやう	加藤潤子
つばめ飛ぶ俺もいつかは急上昇 ・・・急降下にはならんようにね	向田将央
宇宙への旅の途中のお遍路や ・・・お遍路宿で長逗留に	金城正則
鯉のぼり風に泳げば影踊る ・・・影を見下ろし泳ぎを研究	山田真佐子
すべり台すべるかに落雲雀かな ・・・蓑虫さんはぶらんこ遊び	渡部美香

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

風の丸木橋を渡る跣(はだし)かな	相原共良
薫風や軽々のぼる竹梯子	相原共良
この味は母の草餅無二無双	相原共良
しみとしわ加齢で仕切る竹の子医者	青木輝子
羽抜鳥ステイホーム居場所ない	青木輝子
松山英樹佐保姫を振り払ふ	赤瀬川至安
蛇穴を出られず糖分は控へ目に	赤瀬川至安
エジプトの像の寝てゐる春治療	赤瀬川至安
新入生の制服一寸(ちよつと)ぶかぶかで	荒井 類
スエズ運河の大混雑や春日差	荒井 類
コロナ禍や死者には花見許さるる	荒井 類
五月雨のトタン屋根のコンチェルト	井口夏子
蜘蛛の囿に絡めばすがる命あり	井口夏子
洗濯が終わればかぶる夏帽子	井口夏子
葉桜や使いこなせぬiPad	池田 慈
リハビリはショパンのワルツ風薫る	池田 慈
都市伝説信じたくなる五月尽	池田 慈
外は春太平の世の座敷牢	池田亮二
仲良きは背中合わせの春の宴	池田亮二
春愁やこの発熱は恋患い	池田亮二
水苔に微睡む顔の青蛙	石塚柚彩
燕とのバトル糞害に憤慨し	石塚柚彩
葉は水木不思議と花は山法師	石塚柚彩
地下鉄を濡らして過ぎる春の雨	伊藤浩睦
初花を待てずこっそりコップ酒	伊藤浩睦
スーパーの花見弁当それなりに	伊藤浩睦
これと云ふ話もなくてラムネ飲む	稲沢進一
後悔は先に立たずや柿渋し	稲沢進一
風に乗せられ有頂天の鯉幟	稲葉純子
鯉幟風を呑みすぎメタボかな	稲葉純子
気のせいか小さくなりし柏餅	井野ひろみ
住職はTシャツ姿苔の花	井野ひろみ
カリバリモグパク糞虫のやうに巣ごもりす	上山美穂
ぞうさんの耳のリボンはモンシロチョウ	上山美穂
青嵐ひとのみカバの大口は	上山美穂

巣づくりのための板です燕さん
 麦畑を真っすぐ上がり揚雲雀
 まだ暗いうちから騒ぎ恋の猫
 ベランダの無き学校に風薫る
 モスクは動寺は静にて黒揚羽
 ピチカートリズムで泳ぐ目高かな
 予約して座ってみたき芝桜
 ベビーカー丸のみしたる大つつじ
 ゴールデンウイークママちやり勢揃ひ
 薫風にのって登らむエベレスト
 ベランダの子雀キョロキョロこんにちは
 新緑に心身浄化されてゐる
 池の鯉いかなる旅をして此処に
 殻を残して引越したのか蝸牛
 嫉妬心隠せず紫陽花の花の色
 増員所せましと武者人形
 カーネーションか？姉さん手製カーネーション
 蚊と蠅の入り涼風求めたに
 涼風や独り飯喰ふ妻の留守
 マスターズ一位の松山風光る
 松山へライフワークのお遍路に
 冒険王買うてくる父どもの日
 ゴールデンウイーク水不足のダム
 巣ごもりや人にも及ぶ変異株
 ワクチンの接種券来てオキザリス
 ででむしの角をふりふり不両舌
 足先をくすぐり返す春の波
 声だけの親しき友よ木下闇
 藤の花散るほたりほたりの音立てて
 まくなぎの大歓迎にあふ駅頭
 べらべらとしやべる金魚は置いとけぬ
 太郎次郎参郎続く鯉のぼり
 武者人形に監視されたる爺の酒
 春風の散歩のみやげの犬のふん

梅野光子
 梅野光子
 梅野光子
 遠藤真太郎
 遠藤真太郎
 遠藤真太郎
 大林和代
 大林和代
 大林和代
 小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 岡田廣江
 岡田廣江
 岡田廣江
 加藤潤子
 加藤潤子
 北熊紀生
 北熊紀生
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 桑田愛子
 小林英昭
 小林英昭
 壽命秀次
 壽命秀次
 壽命秀次

道草の余生たつぷり春眠す
 トンネルの入口出口山笑ふ
 黙食にマスク会食四月馬鹿
 多国籍野菜も買って夏料理
 無人市の箱に百円春キャベツ
 葱坊主だから言える自肅せい
 葱坊主ウンもスンもなく爆ぜていた
 直ぐに伸びことしか知らぬ若竹よ
 てっぺんに花お日様好きの山法師
 これはこれはこれは長寿の胡蝶蘭
 五つ星蠅には勝てぬレストラン
 出開帳観音様も出前かな
 口紅になれると知らぬ紅の花
 家籠りや衣桁で拗ねる白緋
 ご隠居はゴルフ三味麦の秋
 葉桜やタイヤ擦り切れ三輪車
 夏近し濡れせんべいの濡れ具合
 天女から施術されたる春の夢
 ひやとひや懐かしい草餅を買ふ
 草餅を食へば田舎の恋しかりけり
 大刀自(おおとじ)に長州の血よ夏蜜柑
 ほととぎす五七五で鳴いたかに
 春眠の夢食ひ糝の腹太る
 初恋はほろ苦き飴春霞
 春眠やチュシャ猫もまだ寝ておりぬ
 蟻の世もヒエラルキーか風光る
 夕立は雨のドラマトタン打つ
 贋作の掛け軸ながめ冷し酒
 コロナ禍や国の賑給(しんきゅう)早く欲し
 風そよぎ「売地」を占拠の春の草
 日を浴びつ黒きシンクロ蝌蚪と影
 コロナ禍の卯波のお化け怖がらせ
 八十八夜眠れぬ夜のラジオと尿瓶
 金なくばカーネーションの絵を贈ろ

白井道義
 白井道義
 白井道義
 鈴鹿洋子
 鈴鹿洋子
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 高岡昌司
 高岡昌司
 高岡昌司
 高岡昌司
 高田敏男
 高田敏男
 竹下和宏
 竹下和宏
 龍田珠美
 龍田珠美
 龍田珠美
 田中 勇
 田中 勇
 田中 勇
 田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 谷本 宴
 谷本 宴
 谷本 宴
 田村米生
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 土屋泰山

ヴェランダにゴーヤー鉢春惜しむ

番付は豪華絢爛五月場所

井戸端の肴にされる桜鯛

コロナ禍や暦通りの夏が立ち

澄み渡る亡父(ちち)の草笛甕り

更衣穴あき下着は車拭き

まん防は利かん坊かと四月馬鹿

行く春をステイホームで見送れり

早過ぎる蚊が物語る温暖化

ビール腹の見立てに抗議鯉幟

コロナ菌祓ふがごとく鯉幟

蜘蛛の網張って交通取り締まり

早々と茶店を閉めて閑古鳥

何もかも不要不急の春愁(はるうれい)

コロナの世怒る色して春夕焼

ひこばえは産毛でありぬ大樹には

ほらほらとちらほらを指す花見かな

つまらない散歩道行く春樂し

花見へと急がば回れいや走れ

旅に出た積もりのひと日春うらら

花時や隣の庭が目の保養

腹いっぱい新緑吸うてより吐息

コロナ禍に賑わう春の接骨院

おそらくはすべてオスです初鯉

風通しきわめてよろし鯉のぼり

エンジン音この逞しき田植唄

果つるまでうつつを回すしやぼん玉

杭は打つ木魚は叩く蠅は飼ふ

心電図薄暑の胸に吸ひつきぬ

職を去りすつかり忘れ更衣

花疲れ今年もなしかそれもよし

真っすぐ伸びる俺の中にも松の芯

毛虫出づことのみ記し日記閉づ

埒もなく夢にふける夕薄暑

斑猫につき従ふて異界まで

飛田正勝

飛田正勝

飛田正勝

長井知則

長井知則

長井知則

西をさむ

西をさむ

花岡直樹

花岡直樹

久松久子

久松久子

久松久子

日根野聖子

日根野聖子

日根野聖子

藤森荘吉

藤森荘吉

藤森荘吉

細川岩男

細川岩男

細川岩男

南とんぼ

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

椋本望生

椋本望生

椋本望生

向田将央

向田将央

百千草

百千草

百千草

雨あめあがれとずぶ濡れの麦秋は
 雨粒が重くて薔薇の肩が凝る
 夏の季語のトップバッター草むしり
 入の字が尻切れのまま鳥雲に
 伽羅葩を褒めてはすすり吟醸酒
 本当の愛ある人を毛虫知る
 空豆に空のことなら聞けばよい
 螻蛄の子にも伝家の宝刀を
 隈取りのやうな泥顔代田搔く
 蝸牛武器にはならぬ角を振り
 血を分けし蚊に極楽行き願ふなり
 古株は消され末黒の薄かな
 アルパカの毛刈りを更衣と呼ぶ
 黙食は滅入らざらめや心太
 寒暖のシーソーゲームや夏近し
 ラジオからあの頃の曲レモン水
 くんくと嗅ぎつつつくる夏香水
 風上に物申したる鯉幟
 逆風を頼みとするなり鯉幟
 矢車の威勢を借りし幟かな
 百千鳥めいてとりどり東京五輪
 その昔遊び転げたげんげ田よ
 少しずれ入学の日の子のマスク
 物置の奥の隅から金魚鉢
 でも聞けばハンコは要らぬ御中元
 デジタル化できぬアナログ蚊帳の外
 玉ねぎやとろーり甘く鍋の中
 詰め放題新茶のすぐに売り切れて
 ひと雨にせり出す若葉また若葉
 野に山にしとしととと緑雨かな
 羽抜鶏せっぱつまりて死んだふり
 金輪際ねずみを追はぬ猫の恋
 水口に三枝の礼や耕転機
 大あくび遠足の子ら去りし山
 花蜜柑鯛めし香らせ風早は
 炙られて命の成就ほたる鳥賊
 里の道人待ち顔の落椿
 宴会はせめて桜の絵の中で

森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八塚一青
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳村光寛
 柳村光寛
 柳村光寛
 山岡純子
 山岡純子
 山岡純子
 山下正純
 山下正純
 山下正純
 山下正純
 山田真佐子
 山田真佐子
 山本 賜
 山本 賜
 山本 賜
 横山洋子
 横山洋子
 横山洋子
 横山洋子
 吉川正紀子
 吉川正紀子
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 渡部美香
 渡部美香
 和田のり子
 和田のり子
 和田のり子